



パッカ パッカと
走^{はし}ってくる馬^{うま}を 見^みつけると、
「あばれ馬^{うま}め、こつしてやる！」
馬^{うま}をつかまえて ポーンッと
なげとばしました。

「ヒヒーン！」

馬^{うま}は 屋^や根^ねをつきやぶって

家^{いえ}の中^{なか}に ブズドーン！

「きゃー、たすけてー」

中^{なか}で はたおりをしていた むすめたちが
したじきになってしまいました。

「まあ、なんてひどいことを。」

せっかく 元^{げん}気^きつけてあげのに。」

おこったアマテラスは「天^{あま}の岩^{いわ}戸^と」にかくれて
出てこなくなってしまうました。

あたりは まっくらやみになり、
わるい神^{かみ}たちが うようよ あばれだし、
お米^{こめ}もやさいも そだたなくなり、
びょうきが ひろまっていました。



「こりや、こまった。」

なんとかして アマテラスさまに
出て来てもらわなくては。」

神さまたちがあつまって 相談しました。

「どうしたもんじゃるか。」

うーん、うーん。」

その時、オモイカネという神さまが いいました。

「くらいときこそ」

あかるくすすのが よいじゃろつ。

そうじゃ、みんなで おまつりをしよう。」

「それは よい よい、それは よい。」

さっそく まつりのはじまりです。

ドンドン ヒヤララ

ピーヒヤララ

ふえやたいこが なりひびき、

みんなでたのしく 歌いました。

そして アメノウズメという女神が

おどりしました。

トン トン

クネクネ

クール クル

むちゅうにおどる

アメノウズメ。



それが

あまりにもおかしくて、

みんな はらをかかえて

おおわらい。

「わっはっは。」

おもしろいおどりだ、

わっはっは。」

「なにがおかしくて

わらっているのかしら。」

ふしぎに思った アマテラス、

そーっと 戸をあけてみると、

「ああ、まぶしいー」

かがみにうつった 自分の姿に

目がくらみました。

まちかまえていた タチカラオという大男が

「えいっー」と

アマテラスを ひっぱり出すと、

くらやみが ぱっとあかるくなりました。

「アマテラスさま、

出てきてくれて ありがとうございます。」





ア マテラスは 言いました。

「わたしを 待つていてくれたのね。

わたしには 世の中を明るくする

つとめがありました。

もう二度と かくれたりしませんよ。」

それを聞いて みんな おおよろこび。

木や草は いきいきと よみがえって、

山や川は きらきらと かがやきました。

こうして みんなのくらしは

もとどおり ゆたかになりました。